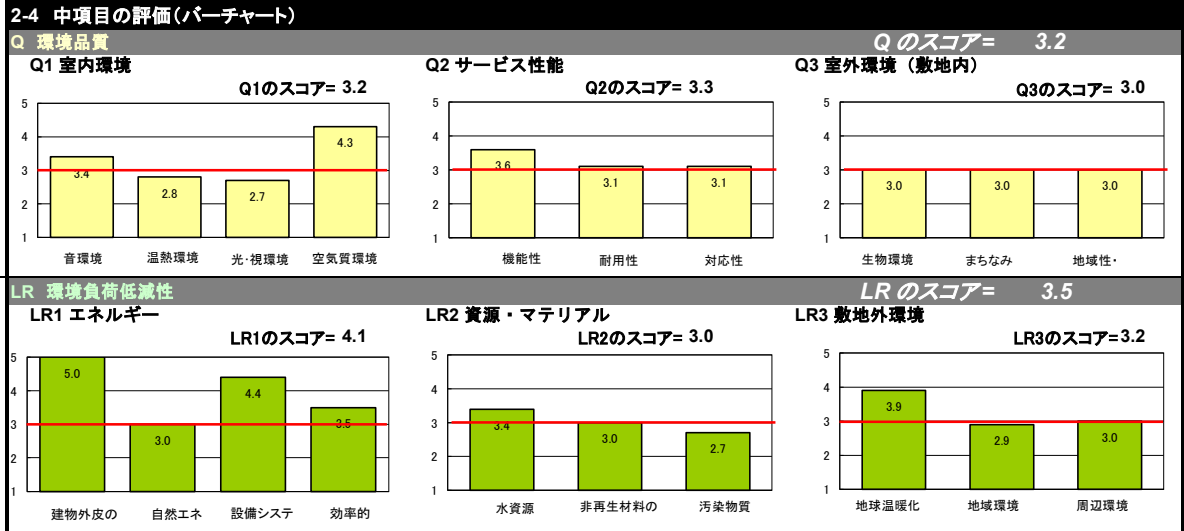
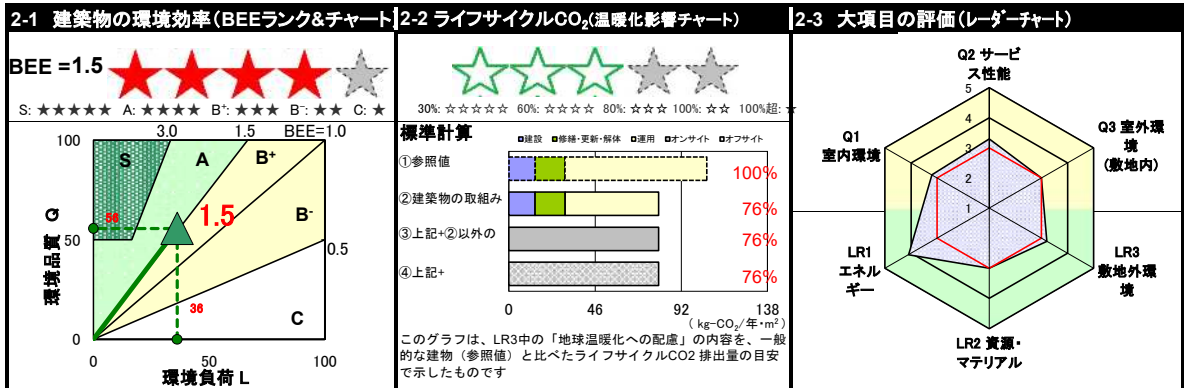


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊田市御船町并料開発計画	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊田市御船町山ノ神56番4、56番341	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年4月21日
敷地面積	49,374 m ²	作成者	福井 俊介
建築面積	837 m ²	確認日	2025年4月21日
延床面積	2,127 m ²	確認者	伊藤 彬



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.9	3.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.0	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	15.4 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
	〈外装材に使用した地域性のある材料〉
	なし
	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
豊田市御船町井料開発計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境						0.40			3.2
1 音環境				0.1	3.4	0.15			3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40			
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			
1 開口部遮音性能					3.0	0.60			
2 界壁遮音性能					3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音			床・壁・天井の3面に吸音材を使用		5.0	0.20			
2 温熱環境				0.3	2.8	0.35			2.8
2.1 室温制御				0.5	3.5	0.50			
1 室温				3.0	3.0	0.38		3.0	
2 外皮性能			外壁の平均熱伝流率0.89(W/m2K)	3.0	5.0	0.25			
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38			
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20			
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30			
3 光・視環境				0.2	2.7	0.25			2.7
3.1 昼光利用				0.3	1.8	0.30			
1 昼光率				3.0	1.0	0.60			
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				5.0	3.0	0.40			
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30			
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00			
3.3 照度			研究室内の平均照度766lxを確保。	3.0	4.0	0.15			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25			
4 空気質環境				0.2	4.3	0.25			4.3
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			
1 化学汚染物質			内装材にはF☆☆☆☆等級品(JIS,JAS)を使用している。	3.0	4.0	1.00			
4.2 換気				0.3	5.0	0.30			
1 換気量			必要換気量は、建築基準法を満たす換気量の1.5倍である。	3.0	5.0	0.33			
2 自然換気性能			自然換気有効開口 431.35(cm2/m2)	3.0	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			東西面から給気し、北面へ排気する計画としている。	3.0	5.0	0.33			
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			
2 喫煙の制御			全室禁煙のルールあり。	3.0	5.0	0.50			
Q2 サービス性能						0.30			3.3
1 機能性				0.4	3.6	0.40			3.6
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40			
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33			
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				0.3	4.6	0.30			
1 広さ感・景観 (天井高)			研究室の天井高3.085m、研究室の周囲3面に窓あり。	3.0	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース			休憩・カフェテリア面積245.105m2	3.0	5.0	0.33			
3 内装計画			パースによる内装計画を実施している。	3.0	4.0	0.33			
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した設計とした。	3.0	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				0.3	3.1	0.31			3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.4	0.33			
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			ほぼ全てに亜鉛鉄板を使用し、屋外ダクトにはガルバリウムを採用。		5.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途の上位2種類以上にB以上を使用		5.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23			
2.4 信頼性				0.1	3.2	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法			耐震クラスAである。	3.0	4.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20			

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	-	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高4.5m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.209<0.3	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	2.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.7	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m =0.66	3.0	4.4	0.30	-	-	-	4.4
4 効率的運用			0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング		リアルタイム監視やデータの分析が可能。	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマに加え、擬音装置を採用。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	OAフロア、可動間仕切りを採用。	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	2.0	0.33	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.33	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率76%	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	適切な量の自転車置場、駐車スペースを確保。	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2 振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
豊田市御船町井科開発計画

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19		
③ 敷地内の緑化					3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:15.4%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 豊田市御船町井料開発計画

計画上の配慮事項	
総合	研究開発拠点として、無駄の少ない効率的な計画を基に、「働く人の快適性」、に焦点を当てて設計をした。具体的には、休憩場所やフリースペースを充実させ、従業員間の活発な交流を促す計画とした。
Q1 室内環境	居室の内装材は、F☆☆☆☆等級品（JIS,JAS）又は大臣認定品としている。また、十分な換気量を確保することで良好な室内空間となる計画とした。
Q2 サービス性能	従業員の主な滞在場所である研究室は、ゆとりある階高、天井高とした。また、休憩・カフェテリアは、面積を十分に確保することで広く、くつろげる空間とした。
Q3 室外環境（敷地内）	敷地外周部を既存緑地と追加で植樹した高木で取り囲むことで、敷地周囲の良好な景観の形成に努めた。
LR1 エネルギー	LED照明を採用する等、設備システムの効率化により、BEIm=0.66を達成した。
LR2 資源・マテリアル	可動間仕切り、OAフロアを使用し、部材の再利用可能性向上に寄与した。
LR3 敷地外環境	駐輪場、駐車場を十分に確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	※特になし